

家庭や地域社会との連携による 道徳教育



広島大学大学院教育学研究科
教職開発講座（教職大学院）
宮里 智恵

1

道徳とは、
人々が守るべき社会規範。

社会規範は社会生活を行う上での
行為の基準をなす。

これが内面化された状態を
「道徳性」という。

道徳性は社会性の価値的側面。

2

家庭や地域は子供の道徳性を育む上で、
どのような存在なのか？

誕生したばかりの赤ちゃん

かつて・・・

- 自らの生命を自らの力で守れないし、守ろうとしない。
- 授乳、排せつなどの全てを他者に依存した、受け身的で何もできない存在。 と思われていた。

今日・・・

- 生まれた時から人への接近や接触要求を持っている。
→生まれた時から他者とのかかわりを求め、かかわり
の中で生きていこうとする社会的な存在。

3

4

人とかわりたいたい赤ちゃん

○泣いて知らせる

- ：おむつが濡れたよー！
- ：おなかが空きましたー！
- ：お母さん、どこですかー？

○人の動きを目で追う、声の方を向く

○あやすとにっこり笑う など

人は生まれてすぐから社会性を発揮し、この社会に働きかけている。
と同時に、この社会に順応しようと社会性をぐんぐん伸ばそうとする存在。

5

人とかわりたいたい赤ちゃん

○アタッチメント（愛着）：ボウルビィ

乳幼児期に特定の養育者（多くは母親）との間で形成される情緒的な絆。**信頼関係**
微笑む、泣く、じっと見つめる、後追いする、抱きつくなどの行動に養育者がかわいさを感じ、積極的にかかわりお世話しようとする気持ちが強くなることで両者の間に育まれる。

○エントレインメント現象：コンドン、サンダー

誕生直後の乳児が他の音には反応しないのに、人間の話しかけに対しては手足を動かして応答する。

○注視時間の差：ファンツ

乳児が最も長く見つめるのは人の顔。 新生児でも。



6

社会性とは

広義には、

人間が人間社会の中で安全に適応的に生きていくためのあらゆる能力や特性。

所属する社会が支持する生活習慣や価値規範などを習得し、それらに沿った行動をするための能力や特性。

狭義には、

「対人関係能力」と同義の概念。

7

「社会化（socialization）の過程」

子供が次第に社会性を身につけていく過程を「社会化の過程」と呼ぶ。

○子供を受け身的で依存的な存在と捉えていた頃：
→社会化の過程は「子どもに社会性を身につけさせる過程」

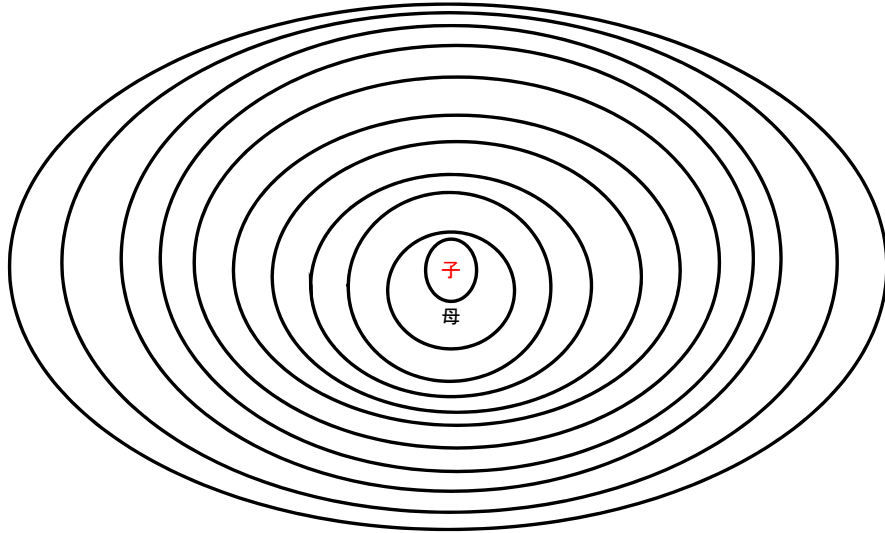
○今日：2つの方向から社会化は進行する。

①子供が主体的に社会に働きかけることを通して、社会的行動を学習し自らを社会化していく側面。

②周りの人々が子供にその社会の文化を伝達しながら、子供がその社会に適応していくのを援助する側面。 🗨️ **援助する存在が必要**

8

「社会化」のエージェント (agent : 推進者)



社会化のエージェントはアタッチメント (愛着) の対象でもある

人間の乳児は自らの生命の安全を維持するために、他者からの保護を求めて積極的に他者に働きかけ、他者とかかわりを持つようとして、周りに盛んにシグナルを送る。

シグナルに応える人（多くの場合、最初は母親）の速やかで適切な応答を通して、乳児は「この人といれば、自分の生命は大丈夫なのだ」「この人といつも一緒にいたい」という気持ち（愛着）を抱くようになる。

この関係をうまく築くことができれば、乳児は愛着の対象を父親、きょうだい、祖父母・・・と次々と広げていく。

エージェント（周囲の人）と愛着の関係があることにより社会化は安定的に促される

☛ 子供は愛着を持つ人物に同一視 (identification) し、その判断

や行動パターンを模倣する。

つまり、愛着を持った人物からより多くを学ぶ。

☛ 道徳的判断や行動は、親、教師、友人や仲間との愛着＝信頼関係があることで習得される。

※良いモデルの必要性

「愛着と信頼」は道徳性の発達に必要

「愛着と信頼」は道徳性の発達に必要

エージェントと結ばれる愛着は自己と他者への信頼感につながり、児童期以降は信頼と尊敬を含んだ関係に発展する。

○ 「人から愛されるに値する存在」としての「自己」

○ 「自分を支えてくれる存在」としての「他者」

この自己概念と他者概念があることにより、人の気持ちを考え、自己の行動を振り返り、失敗を克服し、自他の利益を考慮した対人行動が可能になる。

例えば・・

罪の意識や謝罪という道徳的な体験は、一旦自己の価値を落とすことであるが、これは「人から愛され支えられている自分」という自己概念があってこそ可能となる。

支えてくれる人が確かにいるという感覚により、罪を認めたり謝罪をしたりしても自己の価値(存在)は保たれる。

むしろ、そのようなことができる自分を肯定し、受けとめてくれる(愛してくれる)人がいる、という確信があることによって、人は罪を認め、謝罪することができる。



愛あるエージェントとの愛着と信頼によって、健やかな自己概念、他者概念が形成され、そのエージェントから教えられた道徳性が身についていく。

しかし、今日・・

エージェントの存在は希薄になりつつある。

- ・核家族化
- ・少子化
- ・地域社会との結びつき など

極端には、親と教師のみがエージェントである場合も。

エージェントの減少は愛着の対象者の減少でもある。

であるならば、
私たち(道徳性の育成を学校教育の立場から担う)
にできることは、

社会化のエージェントを学校教育の場に招き入れること。

- ☛ 子供と教師の間にいる人々を道徳教育の場に。
例えば家族を。 例えば地域の方々を。

重要なことは、意図的、自覚的に招き入れること

学校や家族、地域の方から育てられた道徳性
(学生200人に聞きました🖋)

○あなたには既にさまざまな「道徳性」が備わっていると思いますが、それらはどのようにして育まれたと思いますか？

次の「道徳性」を身につけてくれた学校、家庭、地域の具体的な場面を思い出してみましょう。

	学校における教育	家庭における教育	地域における教育
思いやりの気持ち			
決まりを守ること			

「思いやり」の気持ちはどのようにして？（家庭：生活の基盤）

- ・家族から可愛がってもらった経験。
- ・家族やペットのために何かをすとか、「〇〇はこうしてくれたら嬉しいと思うよ」と促されたりした。
- ・お茶を入れる時、他の人の分も一緒に入れてあげてと親に言われていた。
- ・父が持ち帰った頂き物のお菓子が人数分足りなくて、家族で「あんたが食べなさい」と譲り合う時。
- ・母の日、父の日、誕生日などのお祝い。
- ・おばあちゃんが足が悪かったので、荷物を持ちたりペースを合わせて歩いたりしたこと。
- ・弟の世話や父母などがしんどそうだったら肩をたいたり優しくした時に、たくさんほめられたこと。
- ・弟と喧嘩したり心配したりするうちに自然と身につく。
- ・妹と遊ぶ中で、何をしたら嫌がるのか何をしたら喜んでくれるか、を学んだ。
- ・小さい頃、ブランコから落ちそうになった私を兄が自分が下敷きになって助けてくれたこと。
- ・夕食のからあげを弟にとっておく。
- ・子供会でもらった1つのショートケーキを持ち帰ってきょうだいで3等分した。
- ・電車などの優先席は座っちゃいけない。若いんだから立っていればいいと育てられた。
- ・絵本、本、テレビ、マンガから。アンパンマン、しまじろう。★

17

「思いやり」の気持ちはどのようにして？（地域：1番身近な社会）

- ・子供会など近所の子供と関わる機会が多々あり、小さい子の面倒をみたりみられたりした。
- ・地域清掃、町民体育大会やお祭りで小さい子の面倒を見る。
- ・困っている人をみたりバスで席を譲ったりした時の気持ちよさから。
- ・地域の人が自分を助けてくれた経験から（水をくれた）。
- ・ケガをした時、近所のおばさんが助けてくれた。
- ・交通指導員や挨拶運動のおじさんやおばさんが、笑顔で「おかえり」などの温かい声をかけてくださった。
- ・地域の一人暮らしのお年寄りの家に訪問し餅つきの餅やカードを届けた。
- ・公園で年の違う友達と遊んだり、近所のお年寄りと話したりした体験。
- ・幼稚園や老人ホームの訪問
- ・電車で席を譲るなど、実際にやっている人を見て自分もそうしようと思った。
- ・公共交通機関での譲り合いのポスター

18

「思いやり」の気持ちはどのようにして？（学校）

- ・縦割り班のペアの下級生や通学団の下級生に優しくすること。
- ・病気の時に友達がプリントや宿題を届けてくれた時。持って行った時。
- ・友達が困っている時に助けた経験から。
- ・道徳の授業での様々な内容。
- ・校外学習での電車の乗り方（妊婦さん、高齢者に席を譲る）
- ・ボールは誰が使うかの話し合い（低学年に譲ってあげる）
- ・他の人のためにスリッパを並べる。
- ・他の人の為に廊下は静かに歩く。
- ・小1の時、小6のペアのお姉さんをいざずらっ子の私はとても困らせたのに、いつも優しくしてくれていたことを、自分が小6になって小さい子のお世話をして気づいた。
- ・給食で食缶をこぼしてしまった子をみんなでフォローして他のクラスから少しづつもらった時。
- ・体育で水泳ができる子がアドバイスをして、できない子をなんとかしようとしたこと。
- ・友達とけんかをして、仲直りをするを繰り返して相手がどう思っているのかを考えた。
- ・けんかをした時や集団で動くとき先生から「自分優先でなく周りの人のことを考えなさい」と。
- ・足など骨折をした子がいたら荷物を持ってあげる→それを先生がほめたり皆に言う。

19

「決まりを守ること」はどのようにして？（家庭）

- ・親とのいろいろな約束（掃除、片づけ、寝る時間、門限など）
- ・親との約束を守らなかった時、なぜその約束が大事かについて説かれた。
- ・門限を守らなかったり言うことを聞かなかったり反抗した時、閉め出された。
- ・交通ルールを守るように言われた。
- ・ごみの捨て方。
- ・必ず誰とどこに行くのかを伝えるように言われていた。
- ・人を待たせると怒られた。
- ・家族の約束は私だけでなく、父母も守ってくれた。
- ・家での毎日のお手伝いがあり、それをしないとこづかいがもらえない。

20

「決まりを守ること」はどのようにして？（地域）

- ・公園で遊具の順番を守る。
- ・登下校する道を変えない。
- ・登校班の集合時刻を守る。
- ・ごみは分別して曜日や方法を守って出す。
- ・公共施設の使い方
- ・ごみのポイ捨てをしている友達が**近所の人から注意**されていた。
- ・ラジオ体操の時、スタンプで順番を守るように言われた。
- ・自転車の二人乗りを**おまわりさん**がマイクで注意していた。
- ・5時過ぎて遊んでいたら「早く帰りなさい」と**近所の人から**言われていた。
- ・道を広がっていると、邪魔なので**年配の方に怒**られた。
- ・団地に住んでいたの遊ぶときに**年上のお兄さんお姉さん**がルールを決めてくれて、**自分が大きくなってからは自分が**ルールを決めて年下の子たちと遊んだ。
- ・**交通指導員の方**から、きちんと整列して登校するように言われた。
- ・お祭りの練習（時間を守る、役割を果たす）
- ・ポイ捨て禁止の**ポスター**

21

「決まりを守ること」はどのようにして？（学校）

- ・掃除などの当番や係の活動で決まりや手順を学んだ。
- ・校則を守ること。クラスのルールを守ること → 守らなければ**みんなが困**る。
- ・**道徳の授業**（どうして決まりを守るのか、を学んだ）
- ・**休み時間**の遊びのルール（順番を守るなど）
- ・**校外学習**での電車の乗り方
- ・時間をきちんと守る。（宿泊学習や修学旅行では時間厳守！）（ベル着ではなく、着ベル活動があった）
- ・時間を守ることは**他の人の時間も大切に**できると学んだ。
- ・友達と遊ぶ中で、**みんなが仲よく遊ぶためには決まりを守らなければならない**ことを学んだ。
- ・先生に**注意されることでその大切さに気付**いた。
- ・周りに迷惑をかけた経験 → 学校のルールから社会のルールへ
- ・**学級みんな**で決まりをつくって守った経験
- ・破ったら**罰則**があった（廊下を走ったら、走ったところからやり直し、ぞうきんがけをする）
- ・体育の授業（スポーツのルールを守る）
- ・先生や**先輩の人たち**が教えてくれた決まりを、上の学年に上がった時、下の子に教えた。

22

家庭や地域での道徳教育は多くの場合、特段の自覚もなく行われるが・・・。そこを変えたい。

それぞれの方が「愛あるエージェント」となって子供に接することで、子供の道徳性は一層効果的に育成される。



- 学校はその方々を、**愛着の対象**となるような招き入れ方をする。つまり、尊敬や信頼の対象者として。**意図的に**。
- その方々には、「**子供の道徳性を育てるエージェント＝応援団**」であることを意識していただく。**自覚的に**。

23

道徳性を育てる「応援団」になって頂く

○家庭や地域の方々に学校の道徳教育・道徳授業の**意図(目的)**を伝える

- ・学校だより ・学級通信 ・道徳コーナー(掲示)
 - ・ホームページ ・道徳授業の公開
- などに 「どんな道徳性を育てようとする取り組みなのか」を。

○家庭・地域の方々を道徳教育・道徳授業に**招き入れる**

- ・参加型の授業 ・地域教材の開発 ・ゲストティーチャー
- ・ビデオ出演 ・手紙文 ・インタビュー

などに当たって 「どんな道徳性を育てようとする取り組みなのか」を。

24

道徳性を育てる「応援団」になって頂く

👉 長続きするコツ

その方にとっても
「やって良かった」 「役立ったのだ」 「またやりたい」
と思っただけのような取り組みに。

まさに、子供と学校への愛あるエージェントになっていただく
ことで三位一体の教育へと歩が進む。

25

未来を築く人材としての「子供たち」を育て上げるために、
学校・家庭・地域がまずは信頼と愛着で結ばれることが大切。

学校・家庭・地域がまなざしを共有し、
「育てたい子ども像」を描くところから共に歩む
「軌を一にした道徳教育」を。



ご清聴ありがとうございました

26